

日本消防



- 第16回全国女性消防団員活性化奈良大会を開催
- 日中韓消防協会会議

□ 絵 日中韓消防協会会議 韓国大邱市 H22.8.24 ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」	(財) 日本消防協会
巻頭言 発展する茨城の安全・安心を目指して！	
.....財団法人 茨城県消防協会 会長 葉梨 衛1
日中韓消防協会会議について	(財) 日本消防協会3
第16回全国女性消防団員活性化奈良大会を開催4
頑張れ！少年消防クラブ（青森県）「消防団観閲式に参加しました。」五戸高校少年消防クラブ 隊長 川守田 義仁14
頑張れ！少年消防クラブ（静岡県）「花火教室の実施について」静岡市消防局消防部予防課 富田 薫15
平成22年（1月～3月）における火災の概要（概数）総務省消防庁 防災情報室16
特別表彰「まとい」を受章して「日南町消防団創立50年目の栄誉」鳥取県日南町消防団 団長 木山 宗司18
.....香川県坂出市消防団 団長 梶 里美20	
東西南北（香川県）～ 絆 ～宮城県栗原市消防団 団長 坂本 長男22
東西南北（宮城県）「岩手・宮城内陸地震での活動」愛知県北名古屋市消防団 団長 中山 金一24
東西南北（愛知県）新たな消防団体制創りと更なる信頼保持を目指して兵庫県福崎町消防団 団長 大野 孝朗26
東西南北（兵庫県）～まちを元気にする消防団を目指して～岐阜県土岐市消防団 本部付分団長 清水 良枝28
シンフォニー（岐阜県）「地域から愛され親しまれ信頼される女性消防団員活動を目指して」奈良県御所市消防団 分団長 弓場 久美子30
シンフォニー（奈良県）「女性ならではのソフトさを生かした消防団活動を目指して」高知県安芸地区消防団連合会 会長・安芸市消防団 団長 野町 久壽昭32
一放水技術向上訓練一【岩崎弥太郎杯争奪】安芸地区消防団連合会伝送り大会第22回全国消防操法大会愛知県蒲郡市で開催34
.....第22回全国消防操法大会 記念Tシャツ36	
住警器Now! ～第3回～30以上の町会・自治会が参加した共同購入の取組（東京都江戸川区）総務省消防庁 予防課37
ガス機器による火災及びガス事故の防止総務省消防庁 予防課40
火山災害に対する備え総務省消防庁 防災課41
消防の国際協力に対する理解の推進総務省消防庁 参事官42
地震に対する日常の備え総務省消防庁 防災課43
うちの名物団員44
消防団の広場（佐賀県）「全国女性消防操法大会に出場して」佐賀県有田町消防団 団長 北川 宣行46
10月の日本消防協会関係行事 編集後記	

表紙写真説明

「瀬戸大橋（本州四国連絡橋）」

本州（岡山県倉敷市）と四国（香川県坂出市）を結ぶ夢の架け橋「瀬戸大橋」です。昭和53年に着工し、9年半の歳月を要して昭和63年に完成しました。

瀬戸大橋は、上部に瀬戸中央自動車道、下部にJR瀬戸大橋線が走る二階建て構造の道路鉄道併用橋として、日本の橋梁技術の粋を結集して建設された長大橋です。

写真は、瀬戸大橋記念公園から見た、ライトアップされた瀬戸大橋です。

香川県坂出市

日中韓消防協会会議

韓国大邱市 【平成22年8月24日(火)】

(財)日本消防協会



高木会長と韓国消防安全協会 金漢龍会長



高木会長と中国消防協会 冯凱文副会長

ラジオ番組
「おはよう！ニッポン全国消防団」
好評放送中！
(財)日本消防協会



7月放送に出演の葛城ユキさん



8月放送に出演の武田修宏さん



9月放送に出演の徳光和夫さんとニッポン放送山本剛士アナウンサー

発展する茨城の安全・安心を目指して!

財団法人 茨城県消防協会 会長 葉梨 衛



茨城県は、日本列島のほぼ中央を占める関東地方の北東にあり、東は太平洋にのぞみ、北は福島県、西は栃木県に接し、南は利根川をもって千葉県、埼玉県に界しており、首都東京の中心から県南の取手市は、40キロメートル、県都の水戸市は、100キロメートルの圏内にあり、現在の人口は約300万人弱で全国第11位であります。

近年の高速道路網や重要港湾の整備により、ひたちなか市に海外輸出用の建設機械を製造する小松製作所や日立建機の工場が立地し、さらにベンツ日本の新車整備センターが日立市に集約され、他にも日産自動車の輸出の拠点地区にもなりました。

また、東京都秋葉原駅と日本の科学研究施設の集積拠点であるつくば市を最短45分で結ぶ「つくばエクスプレス」が、平成17年に開通し、現在周辺駅を中心として、住宅団地等の開発が急ピッチで進められています。

さらに、航空自衛隊百里基地との共用空港として、茨城空港が本年の3月に開港いたしました。

現在、韓国のアジアナ航空が茨城～ソウル便を、スカイマーク社が茨城～神戸便を定期便として1日1往復し、さらに茨城～上海便も期間限定で就航し、今後の定期便の就航も期待されるところです。

この様に発展する茨城の安全・安心を守

るのは、45消防団24,495人の消防団員と26消防本部4,309人の消防職員です。

本県は、比較的災害の少ない県であると言われておりますが、昭和61年8月には、台風から変わった温帯性低気圧により、2日間の雨量が県内全域で200mmを超える記録的な雨量となり、この大雨により県内河川の25カ所で決壊及び溢水し、死者4名、軽傷者14名、全壊家屋8棟・半壊及び一部損壊家屋52棟、床上浸水6,980棟、床下浸水8,029棟となり、農業被害も含めた被害総額は384億9,462万円となりました。

近年は、いわゆるゲリラ豪雨による局地的な災害は見受けられるものの、全県的な大規模な災害は発生しておりませんが、今後発生が予想されている首都直下地震の影響が懸念されています。

この様な災害に備えるために、県内の消防団では、全国の消防団同様日々の訓練を重点的に行っています。

特に消防操法訓練の成果を発揮する消防操法大会は、毎年県内6地区で実施しており、各消防団の熱い戦いが繰り広げられています。

この地区大会は、原則1消防団1チームとしておりますが、市町村合併により統合した消防団では、団員の士気が低下するとして、旧市町村単位で出場を希望する消防団もあり、消防団の活性化のためにこれも

認めることとしています。

また、全国大会の前年は、各地区優勝チームによる選考会も実施し、さらに5年ごとの記念大会も県大会として、各地区の小型ポンプの部と自動車の部の優勝チームにより実施しています。

今年11月の愛知県蒲郡市で開催される全国大会に出場する常総市石下消防団は、3回連続の出場であり、前回準優勝であったことから、その上を目指してすでに現地の会場を視察する熱の入れようです。

これら本県の消防団も、他県同様団員の減少傾向が続き、毎年約300人程度が減少していました。

当協会では、これまでも消防団員の減少対策として、消防団の活性化事業を重点的に実施してきており、たとえば、消防団が市民祭りに消防コーナーを設置したり、市民運動会に消防操法を披露する等積極的に消防団を広報する事業に助成金を支給したり、また毎年県と共催で、テーマを決めて各地区毎に地区の消防団長、消防長及び消防主管課長等との懇談会を開催する等の各種施策を実施してきましたが、団員の減少傾向は改善されませんでした。

これらのことから、当協会の平成19年度の理事会・評議員会（総会）において、近年の男女共同参画型社会の形成を受け、女性の特性を活かした独居老人宅の住宅防火診断や、救命講習等で大きな成果を挙げている女性消防団を、概ね3年程度で県内全市町村に設置することを決議しました。

さらに、女性消防団の設置を促進するため、全消防団長、団幹部、消防主管課長、全消防長及び女性消防団による「女性消防団結成促進大会」を開催し、講演や女性団員の体験発表及びパネルディスカッション等

を実施し、その後知事等県幹部も参加し、意見交換会を実施してきました。

この女性消防団結成促進大会には、開催初年度より種々アドバイスをいただきました、東京都赤羽消防団の小澤浩子副団長さんや、ご講演をいただきました日本消防協会の秋本理事長さん、消防庁の飯島防災課長さんに、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

この結果、平成19年度当初の女性消防団は13団約180名であったものが、今年4月現在31団約480名に増加し、これに伴い男性団員の減収傾向も改善され、毎年約300人程度減少していた団員が、平成20年度は対前年度183名の減、平成21年度は同じく95名の減、そして今年度は何と46名の増加となりました。

そして、今年度の全国女性消防団員活性化奈良大会には、本県の阿見町消防団の入野美穂班長が体験発表をするということもあって、本県から61名の参加があり、全員大きな体験が出来、今後の活動が期待される所です。

3年程度で全市町村に女性消防団を結成するという決議は、協会の役員である消防団長自らが行ったことであり、各団長さんには大きなプレッシャーになったことと思われませんが、各団長さんの努力により大きな成果を挙げつつあります。

この様に、消防団員の減少対策や消防団の活性化については、消防団自らの問題として積極的に事業手法を検討し、実行していくことが大切であることを痛感しました。

私は、今後とも伝統ある茨城消防の精神を守り、さらに発展していく本県の安全・安心を守るため、より一層尽力する覚悟です。

日中韓消防協会会議について

財団法人 日本消防協会

8月24日（火）、韓国大邱市で日本、中国、韓国三か国の消防協会代表者による会議が開催され、日本からは高木繁光会長、豊永義夫副会長、芳野茂副会長、秋本敏文理事長が参加しました。

各国協会代表者からは、日中韓消防協会の交流を一層推進することの意義が述べられ、様々な火災のほか、暴風雨、大洪水、地震等大規模な自然災害が相次いでいるなかで、日中韓三か国の消防協会は、各分野において、より緊密に情報交換等を行い、消防交流を一層推進することにより、各国の消防の発展と安全の確保のために貢献することを合意しました。

なお、今後の会議の開催は原則として三か国の輪番とすることとされ、次回は2011年中国で開催することに合意した。



～第16回全国女性消防団員活性化奈良大会を開催～

平成22年7月29日（木）奈良県奈良市「なら100年会館」で第16回全国女性消防団員活性化奈良大会が盛大に開催され、全国から約2,500名の女性消防団員等関係者の方々が参加されました。

今大会は、いにしへの都奈良へようこそ「未来へつづく女性消防団員の絆」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や取り組みについて情報交換し幅広い視野と知識を学び、地域の「安全」「安心」な暮らしの貢献を目的に女性消防団員の活気ある大会となりました。



- 1 大会名称 第16回全国女性消防団員活性化奈良大会
- 2 開催日 平成22年7月29日（木）～30日（金）
- 3 大会会場 大会 「なら100年会館」 10：10～17：00
情報交流会 「奈良ロイヤルホテル」 18：00～19：30
- 4 主催 総務省消防庁
財団法人 日本消防協会
財団法人 奈良県消防協会
第16回全国女性消防団員活性化奈良大会実行委員会
- 5 共催 奈良県 奈良市

【オープニングセレモニー】



奈良市消防音楽隊・奈良市消防団広報指導分団（カラーガード隊）

【開会式】



高取消防団 辰巳さん、大和郡山市消防団 米川さん、桜井市消防団 吉岡さんによる大会旗の入場



大和高田市消防団 西川さんによる開会宣言



総務省消防庁 久保長官



日本消防協会 高木会長



奈良県消防協会 芳野会長



開催地奈良市長 仲川市長



奈良県知事 荒井知事 祝辞

【活動事例発表】

活動事例発表は、全国から多数の応募がありました。4名の方々に発表していただきました。



高知県高幡消防組合中土佐消防団 団員 山本カルメンさん
「私ルーマニアから来ました。消防団に入団しがんばっています。」



茨城県阿見町消防団 班長 入野美穂さん
「未来へつながる防火教室」



三重県桑名市消防団 分団長 後藤昌子さん
「自主防災訓練が実践に」



埼玉県川口市消防団 団員 三隅美恵子さん
「男性団員と共に」

※ 発表内容について次号以降の「日本消防」に掲載を予定しております。

【アトラクション】



あすか野小学校・河合第三小学校合同バンド（奈良コスミックジュニアプラスバンド）
による華麗なる演奏。

【 火災予防啓発劇 】

火災予防啓発劇は、全国から多数消防団の方々が応募されましたが、今大会では3消防団に発表していただきました。発表した各団体とも、趣向を凝らしており、啓発効果の高いものでありました。



奈良県橿原市消防団
 『“万葉ひまわり” 防火訪問指導 愛の劇場』



兵庫県加古郡播磨町消防団
 『住宅用火災警報器をつけよう～嫁姑編』



福岡県北九州市戸畑消防団
 『全国初!! ～不思議体験～動く! 光る! 現代大型紙芝居「パネルシアター」』

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは、「多様化する女性消防団員活動」をテーマにゲストアドバイザーに映画作家河瀬直美さん、アドバイザーに赤羽消防団副団長小澤浩子さんを迎え、活発な意見交換が行われました。各パネリストからは、女性消防団員の様々な活動の姿が紹介されるとともに、河瀬さんからは、こうした活動が住民に十分には知られていないのではないかという指摘がありました。



ゲストアドバイザー河瀬直美氏
並びにアドバイザー小澤浩子氏



4名のパネリスト

ゲストアドバイザー
映画作家 河瀬 直美 氏
アドバイザー
東京都赤羽消防団 小澤 浩子 氏
パネリスト
奈良県奈良市消防団 安田 美紗子 氏

長野県下諏訪町消防団 両角 真由美 氏
愛媛県松山市消防団 岩崎 沙耶 氏
秋田県鹿角市消防団 奈良 日佐子 氏
コーディネーター
(財)日本消防協会理事長 秋本 敏文

※ 内容の詳細について、次号以降の「日本消防」に掲載を予定しています。

【 記念講演 】

記念講演には、「一振人生」という演題で、元プロ野球選手で、現在は、テレビ解説者などとして幅広くご活躍されています川藤幸三さんから百鳥秀世さんとの掛け合いで川藤さんの野球人生をまじえたお話を頂き、女性消防団員を大いに励まして頂きました。



【 閉会式 】



奈良県生駒市消防団 中野さんによる大会宣言

大会宣言

わが国の本格的な首都「平城京」の誕生記念平城遷都1300年祭が開催されている、ここ奈良で、いにしへの都 奈良へようこそ「未来へつづく女性消防団員の絆」という大会テーマの下、この町が好き！この町を守りたい！という強い使命に燃え、勇敢かつ献身的に日々任務の遂行にあたっている全国の女性消防団員が一堂に会しました。貴重な体験、示唆に富んだパネルディスカッション、バラエティーな発想の啓発劇などにより、日頃の活動を進めていくうえで大きな糧となりました。

私たちは、今大会を契機に情報や知識をさらに習得し、全国の女性消防団員が一致団結「安全・安心」なまちを目指し、「絆」をより一層深め、発展していくことを、ここに宣言いたします。



奈良県奈良市消防団 下櫻さんによるお礼の言葉

【 大会旗引き継ぎ 】



(奈良県消防協会芳野会長 → 日本消防協会高木会長 → 香川県消防協会菟淵会長)





次回大会開催地香川県消防協会 菰渕会長挨拶



第17回全国女性消防団員活性化香川大会

～ようこそ瀬戸の都さぬぎへ「集まれ！つながれ！女性消防団員」～

日時 平成23年11月11日（金）～12日（土）

場所 アルファあなぶきホール（香川県県民ホール）



奈良県御所市消防団 弓場さんによる閉会宣言



全国の消防団のPRコーナー



やまとのお茶席コーナー



奈良の物産コーナー



日消グッズコーナー

会場には、全国の女性消防団のPRコーナー、やまとのお茶席、奈良の物産コーナー、日消グッズコーナーなどを設置しました。各コーナーには、大勢の人が集まり大盛況でした。

【 情報交流会 】

活性化大会終了後、大会の熱気が冷めやまぬまま情報交流会には約1,600名の方々が出席されました。せんとくんとせんとくんダンスの登場で会場は大いに盛り上がり情報交流会が始まりました。久保消防庁長官並びに高木会長からご挨拶を頂き、川藤さん、河瀬さん、奈良市長も加わり鏡開き、奈良市議会山本議長のご発声による乾杯と続き、中谷堂さんの高速餅つきショーや西川まいさ（吉沢京子）さんによる日本舞踊、和太鼓 耀の皆さんの演技など皆様に素晴らしいアトラクションも披露されました。

また、会場では離れた地域の県同士の席が同じテーブルに同席されており、地域を越えた情報交流が図られました。



せんとくとんとせんとくんダンサーズ



総務省消防庁 久保長官 挨拶



日本消防協会 高木会長 挨拶



中谷堂さんによる高速餅つき



西川まいさ（吉沢京子）さんによる日本舞踊



和太鼓 耀のみなさんの演技



奈良にゆかりのある方々のトークショー
七井貴之さん・ダニエルカールさん・西川まいさ（吉沢京子）さん

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.4 五戸高校少年消防クラブ【青森県】 「消防団観閲式に参加しました。」

五戸高校少年消防クラブ 隊長 川守田 義仁

四月下旬、結成から一月もありませんでしたが消防団観閲式の整列と行進に参加させていただきました。結成間もないこともありスクールジャージでの参加となりましたが、アポロキャップだけは地元消防団からオリジナルのものを急ぎょ準備していただき、被ると身が引き締まり規律の動きも機敏になり仲間意識も増したように感じます。

当日は消防署員や団員に熱心にご指導いただいた規律を存分に発揮するべく、最初は徒歩部隊の後に整列し観閲官を迎え目送り、次に観閲官の前をラッパ隊の音に

合わせ腕を大きく振り二列で行進し、かなりの緊張でしたがなんとかやり遂げ、沿道からは拍手をもらい観閲官からもお褒めの言葉をいただくことが出来ました。

短期間の訓練でしたが、簡単なような動作も難しいことを実感し、更に機敏に動く消防署員や団員を目の当たりにして日頃の訓練の重要性を強く感じました。

現在は活動服も揃い、ますます身を引き締め、地元女性消防団員のご指導の下、軽可搬ポンプ操作に取り組んでいます。いつか町の行事等で披露する予定です。



頑張れ!
少年消防
クラブ

No.5 三番町地区自治会連合会少年少女消防
クラブ【静岡県】

「花火教室の実施について」

静岡市消防局消防部予防課 富田 薫

静岡市も梅雨明け以来、連日の猛暑続きですが、クラブのメンバーは暑さにも負けずがんばっています。

8月20日、クラブ主催の花火教室を実施しました。

花火教室とは、安全な玩具花火の遊び方の説明を受け、実際にクラブ員が体験するもので、幼少年期から正しい火の使い方を覚えるとともに、大人になっても防火のり

ーダーの役割を果たしてもらうことを目的としています。

この日は、夜7時に約50人のクラブ員が小学校の校庭に集まりました。

指導員や消防職員から説明を受けた後、各クラブ員は「子供だけで遊ばない」「人や物に向けない」「楽しんだ後は水バケツで消火する」などの注意事項を守りながら、正しい花火の遊び方を学びました。



平成22年（1月～3月）における 火災の概要（概数）

総務省消防庁 防災情報室

1 総出火件数は1万2,834件、前年同期より1,332件の減少

平成22年（1月～3月）における総出火件数は、1万2,834件で、前年同期より1,332件減少（-9.4%）しています。これは、おおよそ1日当たり143件、10分ごとに1件の火災が発生したことになります。また、火災種別でみますと、次表のとおりです。

2 総死者数は658人、前年同期より48人の減少

火災による総死者数は658人で、前年同期より48人減少（-6.8%）しています。また、火災による負傷者は2,239人で、前年同期より116人減少（-4.9%）しています。

平成22年（1月～3月）における火災種別ごとの出火件数

種別	件数	構成比(%)	前年同期比	増減率(%)
建物火災	7,771	60.6%	△407	△5.0%
車両火災	1,190	9.3%	△94	△7.3%
林野火災	457	3.6%	△73	△13.8%
船舶火災	20	0.2%	△3	△13.0%
航空機火災	1	0.0%	△1	△50.0%
その他火災	3,395	26.5%	△754	△18.2%
総出火件数	12,834	100.0%	△1,332	△9.4%

3 住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く）は400人、前年同期より35人の減少

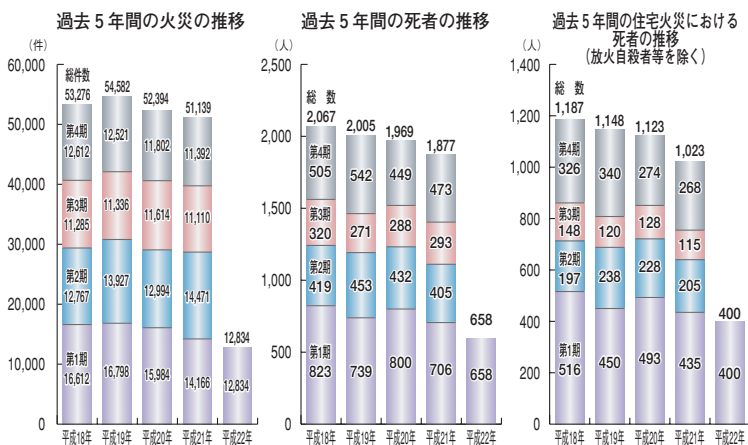
建物火災における死者512人のうち住宅（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）火災における死者は、450人であり、さらにそこから放火自殺者等を除くと400人で、前年同期より35人減少（-8.0%）しています。なお、建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は87.9%で、出火件数の割合60.3%と比較して非常に高いものとなっています。

4 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）の約6割以上が高齢者

住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）400人のうち、65歳以上の高齢者は257人（64.3%）で、前年同期より19人減少（-6.9%）しています。また、住宅火災における死者の発生した経過別死者数を、前年同期と比較しますと、逃げ遅れ235人（38人の減・-13.9%）、着衣着火18人（8人の減・-30.8%）、出火後再進入13人（3人の増・+30.0%）、その他134人（8人の増・+6.3%）となっています。

5 出火原因の第1位は「放火」、続いて「こんろ」

総出火件数1万2,834件を出火原因別にみますと、「放火」1,495件（11.6%）、「こんろ」1,220件（9.5%）、「たばこ」1,183件（9.2%）、「放火の疑い」1,091件（8.5%）、「ストーブ」777件（6.1%）の順となっています。また、「放火」及び「放火の疑い」を合わせますと2,586件（20.1%）となっています。



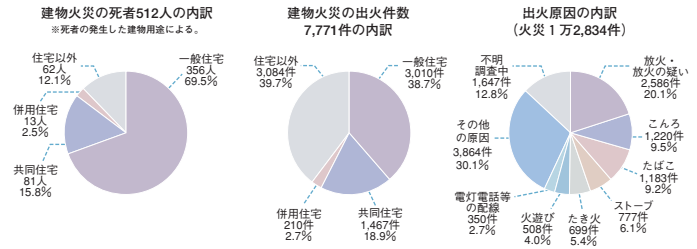
※1 本年データは概数値を、それ以外の各年のデータは確定値を使用
 ※2 第1期（1月～3月）、第2期（4月～6月）、第3期（7月～9月）、第4期（10月～12月）

6 住宅防火対策への取組

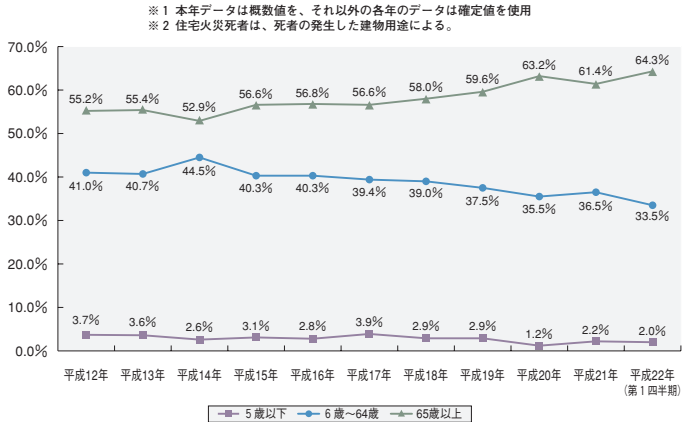
平成16年6月には、すべての住宅に住宅用火災警報器等の設置及び維持を義務付ける旨の消防法の改正が行われました。新築住宅については、平成18年6月1日から、既存住宅については市町村条例で定める日からそれぞれ義務化が適用開始となります。既存住宅について既に義務化されている地域もありますが、平成23年6月までには全国で義務化されることとなります。しかし、住宅火災による死者数を低減させるためには、住宅用火災警報器等の設置・維持義務が適用開始されることを待つことなく、できるだけ早い時期に設置することが重要です。また、平成20年12月には、「住宅用火災警報器設置推進会議」を開催し、同会議において、あらゆる主体が総力を結集して、住宅用火災警報器の設置推進を国民運動的に取り組むべきであることを示した「住宅用火災警報器設置推進基本方針」及び「住宅火災死者の半減を目指して緊急アピール」が決定され、基本方針に基づいた早期普及に係る取組を強力に推進することとしています。これらのほか、平成22年度は、広報、普及・啓発活動の積極的な推進に資する住宅防火対策推進シンポジウムを全国18か所で開催するほか、春・秋の全国火災予防運動等の機会をとらえ報道機関や消防機関等と連携した普及啓発活動を行うなど、住宅用火災警報器等の早期設置促進活動を行う予定です。

7 放火火災防止への取組

平成22年（1月～3月）の放火及び放火の疑いによる火災は2,586件で、前年同期より576件減少（-18.2%）していますが、全火災の20.1%を占めており、依然として高い割合になっています。ソフト対策としては、春・秋の全国火災予防運動において放火防止対策に積極的に取り組むよう消防機関に通知し、全国で放火火災防止対策戦略プランに基づき、チェックリストを活用した自己評価による「放火されない環境づくり」を目指した取組が進められています。また、ハード対策として



住宅火災死者(放火自殺者等を除く)における年齢区分別割合の推移



は、放火行為の抑制に効果が期待される放火監視機器の開発・普及を促進するため、「放火監視センサーを用いた放火監視機器に係る技術上のガイドライン」の策定を行うとともに、現在、全国4地域に放火監視機器を設置し、効果の検証を行っています。

8 林野火災への取組

林野火災の件数は457件で、前年同期より73件減少（-13.8%）し、延べ焼損面積は274haで、前年同期より15ha増加（+5.7%）しています。例年、春先に林野火災が多発していることから、本年も「林野火災に対する警戒の強化について（平成22年3月2日消防特第34号）」を各都道府県等へ発出し、入山者や林業関係者等に対する林野火災予防の徹底・警戒強化やヘリコプターによる空中消火の積極的な活用等について周知しました。また、毎年、林野庁と共同で火災予防意識の啓発を図り、予防対策強化等のため、春季全国火災予防運動期間中の3月1日から7日までを全国山火事予防運動の実施期間とし、平成22年は「消さないで小さな命の帰る場所」という統一標語のもと、様々な広報活動を通じて山火事の予防を呼びかけました。



特別表彰「まとい」を受章して

日南町消防団創立50年目の榮譽

鳥取県日南町消防団 団長 木山 宗司



日南町は鳥取県の西南端に位置し、東西25km、南北に23km、鳥取県の約10分の1となる340.87km²の面積を有しています。島根、広島、岡山の県境に接し、中国山地の分水嶺として、水と緑、自然に恵まれた町です。

一方、若年層の人口流出による少子化が進み、高齢化率は45%を超える過疎の町でもあります。

日南町消防団は、昭和34年、5町村の合併により誕生した日南町とともに創立しました。以来今日まで住民の安心・安全を念頭に置き、日々活動に取り組んでまいりました。折しも創立50周年を迎えた節目の年に、まとい受賞の栄を賜り、日南町消防団の歴史を築いてきた諸先輩方の努



ポンプ操法

力の成果が結ばれたものと感慨深い思いであります。

さて、日南町消防団は定員103名、本部のほか7つの分団で構成されています。過疎・高齢化が進み団員確保が困難な状況ですが、現在ひとりの欠員もなく定員数が確

保されており、これも住民のみなさんの消防団への理解と期待があって実現できているものであります。

その期待に応えるべく、火災・水害等有事の際の出場はもとより、春と秋には消防車で町内を巡回する防火パレードを行い、火災予防を呼びかけています。

ポンプ操法では、毎年7分団が持ち回りで訓練を行



出初め式

い、鳥取県大会の予選となる県西部大会に出場しています。この西部大会では、昨年今年と2年連続で準優勝を果たし、県大会へ出場いたしました。

また、夏には夏季訓練、秋には秋季消防演習、出水期には町内各地域で水防訓練を行っています。夏季訓練では規律訓練、救急救命講習などを実施し、団員の資質向上を図るほか、秋季演習では、地元の自衛消防団の協力を得て、実際の火災を想定した訓練を実施しています。水防訓練においても、自衛消防団の協力のもと、土のうづくり、積み土のう工法の訓練を実施するなど、地域の自主防災組織と連携を密にしながら、いざという時の災害に備えています。

近年の異常気象により、全国各地で集中豪雨が発生していますが、今年7月には日南町でも豪雨災害に見舞われました。町内



水防訓練

の一部の地域に局地的に豪雨となり、夕方から降り始めた雨の総雨量は2時間で100ミリを越え、土砂崩れ、床下浸水等の被害をもたらしました。町では対策本部を立ち上げ、対応にあたる一方、消防団は全分団を招集し、積み土のうや倒木撤去、避難誘導など水防活動を展開しました。農地を中心に多くの被害が発生したものの、人的被害が発生しなかったことが、不幸中の幸いでありました。

今まで、全分団が1箇所に集中して実際の防災活動を行った事例は無く、今回の出動から改善すべき点もいくつか確認することができました。この経験を今後の活動に活かしていくことが大切であります。

高齢者が増えていく日南町において、消防団が果たすべき役割もさらに大きくなりつつあります。まといを受章した消防団として、町防災の要として、これからも住民の安心・安全のため活動してまいります。



秋季消防演習



～ 絆 ～



香川県坂出市消防団 団長 梶 里美

1. 坂出市の紹介

坂出市は、人口57,361人（平成22年4月1日現在）、市の総面積は92.46km²で、香川県のほぼ中央部に位置しています。

市の中心部は海岸沿いに平坦に開け、綾川を中心に豊かな田園地帯が広がり気候風土が温暖なところです。

市の北側には瀬戸大橋沿いに島々が連なり、瀬戸内海国立公園の多島美を眺めることができます。

一方、市の南側には「新日本百名山」の讃岐富士と称される飯野山（422m）があり、海に山に自然豊かな土地柄です。

坂出市はその昔、久米栄左衛門による大開拓事業で塩田の基礎が築かれ、以来全国でも有数の塩のまちとして栄えてきました。しかし、長年坂出市を支えてきた塩田も度重なる塩業整備や技術革新によって姿を消し、代わって香川県下最大の番の州工業地帯が造成され、この臨海工業地帯によって瀬戸内工業圏の中核都市として重要な位置を占め、平成4年には四国横断自動車道が瀬戸大橋と連結し、坂出市は本州と四国を結ぶ高速道路網の四国側の玄関となる重要な拠点となっています。



新日本百名山「飯野山」（通称 讃岐富士）

2. 坂出市消防団の紹介

坂出市消防団は、先人によって築かれた長い歴史と伝統がある消防団で、平成22年4月1日現在の体制は、1本部3方面隊10分団で組織され、団員数504名で構成されています。

消防団員は、地域住民の有志で組織され、火災のみならず各種災害に出場し、地域に密着した消防防災活動を展開すると同時に住宅用火災警報器の普及啓発活動を積極的に推進することにより、地域住民と団員間において顔が見える関係を構築しています。

また、消防団員は地域住民を災害から守るほか、地域のリーダーとして各種イベントにも参加しており、消防団員の郷土愛護の精神に基づく献身的な活動は地域住民から大きな信頼と期待を受けています。



坂出市消防団与島分団

3. 消防団の活動

主な行事として、春季には、春季全国火災予防運動週間にもなう分団演習。副分団長以上の団員を対象にした“団幹部研修”及び新任消防団員を対象にした“初任者教養”を同日開催しています。幹部研修の内容は、時節に応じたテーマ等、座学を中心に消防団幹部として必要な知識の習得を図っています。一方、初任者教養においては、訓練礼式及び消防団活動に必要な基礎知識・技術の習得を図っています。

初任者教養で特筆すべき内容は、救命率の向上を図るためには、消防団員を効率的に活用すべきであるという観点から研修カリキュラムに普通救命講習を組込みCPR等、救命技能を有した消防団員の育成に力を注いでいます。

夏季には、市主催の震災対策避難訓練に参加し、自主防災組織等、地域住民との連携強化を図りながら救助技能の向上に努めています。

秋季には、香川県総合防災訓練、香川県消防操法大会に参加するとともに秋季全国火災予防運動週間にもなう分団演習を実

施しています。特に、香川県消防操法大会では厳しい訓練を乗り越え、過去5年間で3度の最優秀賞に輝いています。

冬季においては、年末夜警を通して地域の防火意識の高揚を図っています。また、1月には、消防最大の行事である消防出初式が盛大に挙行されています。

4. おわりに

今回、本誌にて坂出市消防団を紹介させていただく機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。また、原稿作成の過程で入団当初の志を思い返すと同時に自分自身を律することができましたことを嬉しく思います。

今後の私の使命は、消防団員として46年間で培った知識・技術、消防精神を次世代の担い手に確実に伝承することです。そして、私自身も引退を迎えるその日まで一人の消防人として常に最善を尽くし、団員との絆、地域住民との絆をより一層強固なものにし、消防団発展のために防災の最前線に立ち続けてまいります。



「岩手・宮城内陸地震 での活動」



宮城県栗原市消防団 団長 坂本 長男

1. 栗原市の概要

栗原市は、宮城県の北西部に位置し岩手県、秋田県に接しています。平成17年4月1日に築館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一迫町、瀬峰町、鶯沢町、金成町、志波姫町、花山村の9町1村が合併し「栗原市」が誕生しました。

市の面積は804.93km²と宮城県総面積の11.0%を占め、県内の最も広い面積を誇り、自然と四季のうつろいが大変美しい高原都市です。中でも、宮城・岩手・秋田の三県にまたがる標高1,627メートルの栗駒山は、東北地方のほぼ中央に位置し、山頂から月山や鳥海山、蔵王連峰、駒ヶ岳、早池峰山など、遠くは太平洋までが一望できる絶景地です。

2. 栗原市消防団の紹介

栗原市消防団は、平成17年4月1日の市町村合併と同時にそれぞれの消防団も合併し、発足されました。現在の分団数は50分団で、団員数は女性団員97名を含む1,919名で構成され、自動車ポンプ12台、小型動力ポンプ付積載車160台、手引動力ポンプ23台、救助資機材などを装備した消防団多機能車両（平成21年度に日本消防協会より交付）1台を配備しています。

3. 岩手・宮城内陸地震での消防団活動

平成20年6月14日土曜日の午前8時43分頃、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2、市内最大震度6強の地震が発生しました。発災当初は、近い将来高い確率で発生するとされていた「宮城県沖地震が来た！」と思いましたが、時間の経過とともに道路閉塞や河道閉塞、大規模な山腹崩壊や土石流で温泉宿が飲み込まれたなど、被害は山間部に集中していることが判明しました。

(1) 駒の湯温泉での捜索活動

団員が捜索現場に投入されたのは、自衛隊や緊急消防援助隊の活動が終わった6月24日から

でした。現場は水分を多量に含んだ泥や流木、巨大な岩など、捜索活動は困難を極めました。ほとんどの活動は手作業となり、土砂はバケツ





リレーで、また、流木はチェーンソーで細かくしての撤去でした。

(2) 土砂災害警戒活動

震災が6月14日でこれから梅雨に入るということもあり、民家裏山や宅地内の亀裂箇所にも雨水が入り二次災害が発生しないようブルーシートを張る作業も行いました。また、瓦屋根などが被害にあった民家の屋根にはシートも張りました

(3) 分遣所勤務（消防署員の代役）

震災当時、栗原市内には3つの分遣所があり、そこに勤務する署員も捜索活動に加わるようになるため、その代役として団員が24時間2交代制で10日間勤務をしました。その間、不運にも分遣所近くで建物火災が1件発生しました。しかし、火元の建物1棟は全焼でしたが、他への延焼を食い止めることができました。

(4) 給水活動

長期間、大規模に断水した地区があり、団員は給水活動を行いました。通常は場所を指定し給水を行いますが、給水場まで来られない世帯には水の宅配も行いました。

(5) 屋根の雪下ろし

被害の集中した山間部は、冬になると雪が数メートルも積もるところがあります。積雪による家屋の二次災害を防止するため、自ら屋根の

雪下ろしが出来ない高齢者世帯には雪下ろしを行いました。

- 他にもさまざまな活動が有りましたが、団員の持っている知識や技術で乗り越えられたのだと思っています。震災当時、消防団の事務局が災害対策本部の事務局を兼ねていたため災害対策本部に缶詰状態となり、団員の活動状況を写真で残すことが出来なかったことは非常に残念に思います。事務局が無理なら団員の中から記録員を指名してでも残すべきだったと反省をしています。

4. 女性消防団員の活動

栗原市消防団の女性消防団は97名で、県内の消防団の中でも最も多数です。しかし、これまでの活動は、所属する地区の範囲だけでした。そこで、先進地の状況をインターネットなどで調べ情報を提供したところ、応急手当普及員の資格を取得したいという意見が多数ありました。女性団員の中には既に3名が資格を取得しており、22年6月には新たに16名の団員が資格を取得しました。現在では、消防本部で毎月1回行われている普通救命講習会の講師としても出場し活動しています。今後もさらなる活性化を進め、団員の確保を図っていきたくと考えています。



5. 終わりに

栗原市では、いまだ行方不明になっている方々の再捜索が行われています。行方不明者の方々のご家族の心情を思いますと大変切ないものを感じます。今後も震災からの復興に栗原市消防団一丸となって活動していきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の震災では、各方面から多大なご協力とご支援を賜りましたこと改めて感謝と御礼を申し上げます。



新たな消防団体制創りと 更なる信頼保持を目指して



愛知県北名古屋市消防団 団長 中山 金一

1 北名古屋市の紹介

北名古屋市は、平成18年3月に旧師勝町と旧西春町の二町が合併し、誕生しました。総人口は81,622人、面積は、東西約6km・南北約4kmの18.37km²と比較的こぢんまりとしており、政令指定都市・名古屋市の北西部に隣接しています。

交通環境も、名古屋市の中心部から約10km圏内に位置し、当市の中央部には南北に名鉄犬山線が名古屋方面・犬山方面へと走り、名古屋市営地下鉄が名鉄犬山線と相互乗り入れをしているため、名古屋中心部へのアクセスも極めて容易となっています。また、市内の西の方には国道22号線が南北に縦断し、近隣には国道41号線、国道302号線、更には名神高速道路等の主要幹線道路が走るとともに県営名古屋空港も隣接しており、交通利便性が非常に高い地域となっています。

地形的には、濃尾平野のほぼ中央部に位置し、極めて平坦で、市内には五条川・新川・合瀬川などの大きな河川が流れる潤い豊かな土地柄です。

合併後も名古屋市のベッドタウンとしての性格と、従来からの都市近郊農業地とし

ての性格を併せ持ち、誰もが安全・安心に暮らせるまち「健康快適都市」を目指し、更に発展し続ける北名古屋市です。

2 消防団の紹介

北名古屋市消防団は、新市誕生を機に更に体制の充実を図るべく、団長と二人の副団長を配置し、分団を中学校区ごとの6分団に区分しました。これに伴い、分団はそれぞれの分団長を中心に通常時における諸活動に責任を持って実施することとし、その自主性に重点を置いています。

団員は、男性157名、女性5名、総勢162名で、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりに全力をつくしています。

機械器具は、消防ポンプ自動車3台、小型動力ポンプ積載車1台、救助資機材積



載車1台、指揮車1台、消防広報車1台を保有し、現在は、二つの車庫にそれぞれ車両を配備しています。将来分団詰所を4箇所増設し、6箇所とし、消防車両を1台ずつそれぞれの分団詰所に配備して行く予定です。

3 消防団の活動

北名古屋市消防団は、近隣二市一町による合同消防出初式から一年が始まり、4月・入退団式、6月・消防団幹部講習会（移動消防学校）、7月・水防訓練、8月・防災訓練、11月・消防団観閲式、12月・年末夜警、等々節目的な訓練等を実施するとともに、毎月19日の「防火の日」や春と秋の全国火災予防週間には広報車による防火広報、分団ごとによる水利点検、各地区の自主防災会に対する消火・放水訓練の指導、更には地区の祭り等様々な催しに対する警備等に就いて、その活動は年間を通して気を抜く暇がないほど、密度の濃い活動を行っています。

幸いにも、山間部のない平地な土地柄のため、山林火災や土砂による災害はないが、ゲリラ豪雨等による河川の越水等の災害は潜在的にあります。平成12年9月に発生した東海豪雨では、当市においても未曾有の被害を蒙り、昼夜を分かたず水防・救助活動に団員一丸となって全力を尽した所です。

また、今後発生が危惧される東海地震・東南海地震に対しても想像を絶する被害が予想されることから、常日ごろから適度の緊張感を保持しつつ、万が一の際には



全力で活動すべく気を引き締めています。

4 おわりに

当消防団も「高齢化」「サラリーマン化」は、他の市町村の消防団同様に現実問題となって来ており、消防力の弱体化が心配されます。これに対処する一つの手段として、団員の欠員補充について、従来の一部強制的な地区推せん方法を見直し、広報による募集や若者の多い体育協会や校区スポーツクラブからの推薦を取り入れ、真に消防団活動に参加したい人材の確保を図り、自覚と自主性による活動を保持し、組織力の強化を図っていきます。

また、今年の4月からは、新たな試みとして女性消防団員を5名採用し、女性ならではのソフトなイメージときめの細かさを前面に押し出した活動には、地域住民の期待も大きく膨らんできています。今後、女性団員を更に増員して、地域により密着した信頼される消防団を目指すとともに、団員一致団結し、地域の安全・安心を確保すべく、一丸となって業務遂行をして参りたいと思います。



～まちを元気にする 消防団を目指して～



兵庫県福崎町消防団 団長 大野 孝朗

1. 福崎町の紹介

福崎町は、兵庫県の中央部よりやや南側に位置し、播磨平野の北西部の一角を占めています。周辺の多くを緑の山に囲まれ、東は加西市、西及び南は姫路市、北は市川町にそれぞれ隣接し、姫路市の中心より約17kmの距離にあります。町域は、東西10.1km、南北11.5kmで、総面積は45.82km²となっています。

また、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が町のやや南側の中央部で交差し、「福崎インターチェンジ」をもつ広域的な交通の要衝地でもあります。

気候は、概ね瀬戸内海型に属し穏やかですが、内陸型気候の影響も受けており、沿岸地域と比較して寒暖の差が大きくなっています。

本町は、姫路市の発展によりベッドタウン的な性格を有するようになり、また、立地条件の良さから多くの企業も工業団地に進出し、活気のあるまちに発展してまいりました。その一方、本町は、文化勲章を受章された民俗学の柳田國男と船舶工学の吉識雅夫をはじめとして、日本画家の松岡映丘、万葉学者の井上通泰、言語学者の松岡静雄など、多くの文化人を輩出しています。

2. 福崎町消防団の紹介

我が消防団は、昭和31年の町村合併により誕生しました。現在1本部32分団600名で平均年齢は30歳と全国的に見ても比較的若い団員で構成されています。

また、団員個々の郷土愛護精神と防災意識

も高く、火災、風水害のみならずあらゆる災害においても迅速に対応し、ときには防犯活動にも取り組んでいます。

消防操法においても熱心に取り組んでおり、最近では、兵庫県消防操法大会においては2大会連続小型ポンプの部で優勝という成績を残しております。本年度、悲願の全国消防操法大会出場も果たしました。

3. 全国消防操法大会出場分団分団長の手記



「第23回兵庫県消防操法大会優勝」

庄分団 分団長

城谷 博紀

平成22年8月8日
(日)、三木広域防災センターにて第23回兵庫県消防操法大会が開催されました。

4年前、第20回全国消防操法大会が行われたこの聖地に、今年も各地区より勝ち上がってきた強豪が集結していました。

我が福崎町庄分団は、この舞台に立つまで連日厳しい訓練を積み重ね、その成果が必ず実を結ぶ事を信じて出場順を待っていました。各分団のすばらしい操法が展開され、いよいよ福崎町の出場となったとき、いままでざわついていた大会会場が一瞬静まり返り空気が張り詰めるのを感じました。この重圧の中にもかかわらず、選手たちはとても落ち着いて、訓練してきたことの全てを発揮した最高の操法を披露してくれました。会場から大

きな拍手が巻き起こったとき、「やり遂げた」という達成感が湧き上がってくるとともに、これで負けても悔い無しという潔い気持ちになったのは、これまでに万全を尽くしてきたからだと思いました。結果は優勝。同時に悲願の全国大会初出場を手中に収めることができました。酷暑とよばれたこの暑い夏の日、最高の操法をやったのけた選手全員に敬意を表します。

私が消防操法に出会ったのは今から12年前、当時は福崎町大会でも優勝経験がありませんでした。その悔しさをばねに私も選手として連夜訓練を積み重ねやっと勝つことができました。続く中播磨大会では初めて水出し操法を経験しましたが、何もノウハウが無いままの手探り状態で毎日が新しい発見であった事が思い出深いです。そして数々の失敗を乗り越え自分たちの糧にしてきた事が二年前、兵庫県大会初優勝という形でやっと花開きました。中播磨地区には全国大会常連の神河町（旧神崎町）という大きな目標があり、追いつけ追い越せの精神で挑み続けました。乗り越えるべき目標があったからこそここまで精進し続けられたのだと感謝の念を忘れた事はありません。

消防操法は人を育て強くすると感じます。人生において学ぶべき事の多くを操法を通じて得る事ができました。厳しい訓練を共に支えあう中で生まれた強い結束感、選手の能力を最大限引き伸ばす指導力、そうして培われた選手の高い技術力。また、消防活動を支え



てくれる多くの地域の方々、家族の協力あってこそという感謝の気持ち。そして何より自分たちの住む町を守る強い使命感と郷土を愛する心を再認識しました。

11月愛知県で行われる全国消防操法大会においては、愛する福崎町の代表として、そして兵庫県代表としての責務を背負い、郷土に名声を持ち帰るためにも自分たちが積み重ねてきた全ての精神と技術を余すところ無く発揮したいと思います。

4. おわりに

近年、多種多様化する災害に対し、団員の士気の高揚と各種の訓練の実施による高度な消防技術を習得し、町民の生命と財産を守るため日々努力を重ねております。

また、我々、福崎町消防団は、防火・防災のみならず防犯及び青少年健全育成に寄与し、地域のリーダーとして安心と安全の町づくりに貢献してまいります。





シンフォニー（岐阜県）

「地域から愛され親しまれ信頼される 女性消防団員活動を目指して」

岐阜県土岐市消防団 本部付分団長
清水 良枝

私の住んでいる土岐市は、岐阜県南東部に位置する人口約6万3千人の市です。近年は、名古屋市への通勤圏でもあり、ベッドタウンとして発展してきました。

美濃焼の産地であり、日本三大陶器まつりの一つとして「土岐美濃焼まつり」と併せて陶磁器の生産が日本一の街として知られています。

特に、最近では、東海環状自動車道の開通により、「土岐プレミアムアウトレット」も全国的に知られ、県外からの買い物客で賑わっています。

さて、土岐市消防団は、本部を中心に7分団と音楽隊及び機能別分団で組織されています。

白石伸七団長以下団員数は、499名となっています。うち、女性消防団員は、平成13年に女性団員だけによる「ききょう分団」として発足しました。

発足以来9年間女性だけの分団として活躍してきましたが、消防団活動の一層の充実と地域住民とのより連携を深めることを目的として、本年（平成22年）4月から、3名が本部に所属し、他の51名は「ききょう班」として各分団に所属しています。

また、音楽隊にも23名の女性団員が所属しています。

女性団員には独身の若い団員が8名いますが、9割が家庭を持ち子育てが終わった女性であり、地元で働いていることから「イザ」火災等が発生した時には直ぐに出動できるよう、また、各地域の人々と密着した活動ができるというメリットから各分団への配属になりました。

女性消防団員の主な活動（訓練）の内容について紹介します。

- ① 大規模災害を想定し、倒壊家屋から「けが人の救出と応急手当」及び「消火」のタイムを7分団で競う実戦操法の訓練の実施。

この訓練は、男性団員による消火、けが人の救出及び女性団員による救出されたけが人の応急手当、AEDによる心肺蘇生、住民の避難誘導及び広報活動等で、この活動を通じ男性団員との連携をより図ることができ、各分団ともに優勝を目指して分団が一つになることができました。

この訓練を通じて実際の災害・火災現場における女性消防団員の役割分担が良く理解できました。

- ② 女性団員全体での活動として、前記の訓練にも取り入れている「応急手当AEDによる心肺



実戦操法



救命講習

蘇生」は24時間の講習を受講し、「応急手当普及員」の資格を取得しています。

この資格を活用し、応急手当（AED取扱含む）を地域住民に知っていただくために、各地域のイベント等説明・実演を行い「見て！聞いて！やってみて！」と地域住民に対し、救命講習受講の広報活動にも力を注いでいます。

- ③ 全国火災予防運動に合わせて独り暮らしの老人宅を訪問し、住宅用火災警報器の設置確認、こんろ、仏壇のローソク・線香の火の始末にかかる防火指導、火災時の避難通路確認等の活動を行っています。

女性団員の訪問という安心感からか、話し相手として長い時間居合わせることも度々あります。

また、土岐市災害時要援護者支援事業に基づき支援者宅の確認も行っています。

- ④ 「住宅用火災警報器」の設置義務化のPRを、各地域のスーパー等の店頭においてティッシュ配布により啓蒙。

スーパーの店頭での活動から、多くの女性市民に女性消防団員の存在を知っていただくとともに、団員募集のPRの良い機会になりました。

- ⑤ 初の試みで、女性団員だけによるS-KYT（消防団危険予知訓練）の訓練を実施。

この訓練は、活動中に潜む危険を予知しチーム・グループで話し合い、ミス未然に防ぐための「指差し確認」やチーム一体となって「スローガンの提唱」等による危険にかかる意識付け。また、活動風景のイラストからそこに潜む危険をグループ毎に話し合い全体での発表等、自分たちでは気づかなかった「潜む危険」を学ぶことができました。

この訓練を受けて、先ず自分たち女性は日常生活の中で「火」を使うことが多く、「火！消しよし！」と指差し確認を習慣付け、活動においても危険が予知できるようケガのない活動に心掛けていきたいと痛感しました。

- ⑥ 女性団員が各分団に配属された背景をよく認識し、様々な分団活動を通じて女性団員の一層の繋がりを大切にするため本年からは、「ききょう班」による班長の意見交換会（班長会）を実施しています。

以上、私たちの様々な活動を紹介してきましたが、団活動、訓練に出動することは、仕事、家庭を持つ女性として本当に大変なことであり、家族の協力、応援があってできることと改めて思いま



独居老人宅防火訪問 要援護者支援事業



住警器啓発



S-KYT（消防団危険予知訓練）

す。

また、日常生活では味わえない訓練による緊張感や活動において多くの人たちと知り合いになれる楽しみもあります。

そして活動・訓練から帰った折りの、「お疲れ！」の主人の一声は何よりの疲労回復剤となり、明日からの活力源になります。

最後になりましたが、女性消防団員になって良かったと思える、女性が持つ優しさときめ細かな配慮を活かし、各分団男性消防団員と一緒に地域を守り、魅力ある女性消防団活動にしていきたいと思えます。



シンフォニー（奈良県）

「女性ならではのソフトさを生かした消防団活動を目指して」

奈良県御所市消防団 分団長
弓場 久美子

私の住む御所市は、奈良盆地の南端に位置しており、西には葛城山、金剛山が聳え立つ自然豊かな地方都市です。5月の葛城山頂ではレッドカーペットを一面に敷き詰め、「一目百万本」と言われるツツジの自然群生で知られ、秋には、古都奈良の風土を感じさせる葛城古道の散策で和みの風景が味わえる素敵な所です。

御所市消防団は、本部と10の男性分団と1の女性分団の団員数217名で構成されています。女性分団は、平成12年10月に発足し、第11分団として現在10名で活動しています。

私たち第11分団では、現在、心肺蘇生法、応急手当の仕方、AED使用方法を受講し、地域の防災訓練や救急フェアーなど各種消防防災イベントなどの啓発活動に取り組んでいます。

また、消防団活動を実施する上で、基本となる敬礼動作、号令の掛け方、駆け足などの規範訓練にも取り組み、毎年行われる災害を想定した市の非常召集訓練や消防出初式において、分列行進をはじめきびきびとした行動をとることが出来ました。消防出初式では、

オープニングアトラクションとして、これまで和太鼓を2回披露してきました。

1回目は女性団員だけでしたが、2回目は男性団員との混合で出演し、とても迫力ある力強い演奏を披露することが出来ました。和太鼓の練習は、非常に厳しく、訓練終了後には、足腰の痛みと疲労、手、指先の震えが止まらない自分自身と戦いながら、また団員それぞれ仕事や家事を抱えての練習を重ねてきました。

当日の演奏を終えて感じることは、目標をもって、1つの事を成し遂げるこうした貴重な体験を通して、団員相互の絆がさらに広まり、深まったように思います。

また、葛城山のツツジの咲く5月には、ロープウェイ昇り口で登山客を対象に山林防火啓発活動を実施しています。観光シーズンは救急事案も多く、事案発生場所を的確に伝言できるように登山道に番号を付した看板を設置しており、登山客には、「ようこそ御所市へ」の気持ちと団員の笑顔で看板設置図の配布や水分補給、火気使用の注意を呼びかけています。



さらには、毎年、年末何かと慌しく火災が発生しやすい時期であることから、私たちの火災予防の声が地域に届きますようにと第11分団車輛（アザレア号）により市内一円を広報巡回しております。



高齢者宅への防火訪問も年間を通じて実施しています。実施当初は、不安さから男性消防職員と共に行っていましたが、やはり男性に対する警戒心が強く、訪問拒否のケースも…。現在では女性ならではのソフト面を生かせる活動の一つと捉え、ガスや消火器の点検など女性団員のみで防火防災に関する助言、指導に取り組んでいます。訪問先で「今日は話し相手になってもらい有難う。ご苦労様。」と温かい笑顔で対応してもらった時は、何よりもうれしく消防団員になって良かったと実感できる瞬間です。

しかし、よく考えてみると、その一方で高齢者の方自身が多くの不安を抱えて暮らしておられるということに気づかせられます。自分の判断力や行動力の低下、相談や話し相手が少ないことからの孤独感など様々です。

高齢者宅への防火訪問も年間を通じて実施しています。実施当初は、不安さから男性消防職員と共に行っていましたが、やはり男性に対する警戒心が強く、訪問拒否のケースも…。現在では女性ならではのソフト面を生かせる活動の一つと捉え、ガスや消火器の点検など女性団員のみで防火防災に関する助言、指導に取り組んでいます。訪問先で「今日は話し相手になってもらい有難う。ご苦労様。」と温かい笑顔で対応してもらった時は、何よりもうれしく消防団員になって良かったと実感できる瞬間です。

しかし、よく考えてみると、その一方で高齢者の方自身が多くの不安を抱えて暮らしておられるということに気づかせられます。自分の判断力や行動力の低下、相談や話し相手が少ないことからの孤独感など様々です。



私たちは、消防団の立場から訪問活動を実施していますが、対象者の不安や諸問題を解決できないジレンマを一方で抱えながら取り組んでいることも事実であります。少子高齢化、核家族化により、高齢者への取り組みはますます重要な活動となっており、消防団のみならず行政、民生委員など関係者（機関）との連携が求められているように感じています。

今後の活動目標の一つとして、女性団員手作りの紙芝居を通じて、保育所、幼稚園児、介護施設など的高齢者の方々への防火防災意識の高揚と知識の普及向上を図る取り組みを行いたいと思っています。

7月には全国女性消防団員活性化大会が奈良県で実施され、私たち女性団員はスタッフとして参加しました。

わずかな業務の合間に全国の啓発劇を拝見しました。男性団員ではとても困難であろう「女性ならではのソフト面を生かした」火災予防啓発劇が見事に披露されていました。

あれほどにもすばらしい発表ができるまで、大変厳しい練習を積んでこられたと思います。団員が同じ目標に向かって一丸となり取り組む姿に感動を覚えました。

今後の消防団活動に取り組む上においては、「苦しさ」や「辛さ」に終わってしまうことなく、団員のみんなと共に「充実・満足感」「達成感」も合わせ持った活動が出来るように心掛け、精一杯取り組んでいきたいと思っています。

— 放水技術向上訓練 —

【岩崎弥太郎杯争奪】安芸地区消防団 連合会缶送り大会

高知県安芸地区消防団連合会 会長

安芸市消防団 団長 野町 久壽昭



●安芸市・芸西村地勢

【安芸市】

安芸市は、県都、高知市から東へ約40kmに位置する田園都市である。市の中央部を安芸川、伊尾木川の二大河川が縦貫し、北には無尽の山林資源を蔵する秀麗な連峰四国山地を控え、南は白砂の海岸が黒潮踊る土佐湾に接している。

【芸西村】

高知県東部（安芸市西方に隣接）に位置している。南は雄大な太平洋に面し、北を山々に囲まれた、年間を通して温暖な気候に恵まれた場所です。そのため、ビニールハウス施設園芸が盛んな高知県内屈指の園芸農村である。

隣接している安芸市・芸西村消防団は、消防技術を競い合いながら強靱な精神を培い、災害時には応援協力体制をはかるうえにおいて安芸地区消防団連合会を形成しており、毎年合同での訓練を行っています。

今年度におきましては、NHK大河ドラマ「龍馬伝」で幕末の志士・坂本龍馬と共に幕末を生き抜き、話題となっています安芸市の偉人、三菱財閥創始者である岩崎弥太郎にちなみまして、「岩崎弥太郎杯争奪」安芸地区消防団連合会缶送り大会と題し、大手飲料メーカーの後援を頂き、7月19日（海の日）に盛大に開催し、多数の市民が見学を訪れ、普段見る機会が少ない消防団の訓練を目の当たりにして消防団アピールの絶好の場となりました。

この訓練は火災時の放水を想定し、隊



員の敏捷性・確実性を養うとともに指揮者の指揮能力向上を目指した実践に即応できる訓練です。

施設は50メートル離れた両側に柱を立て、高さ10メートルの位置にワイヤーを張り中央部に缶を吊るしたもので、選手（指揮者を含め11名）は中央部に整列しスタート後ポンプ操作・ホース（3本）延長等を行い両側から放水、相手チームの柱まで缶を送ることにより勝敗を決めるものです。訓練には、安芸市、芸西村消防団全15分団が参加、トーナメント方式により対戦を行いました。

綿密な計画を立てて、フォーメーションでホースを延長等、各分団が工夫を凝らして行っていましたが、なかには準備不足の為に放水が遅れたり、ホース結合確認不足による不結合等のミスで勝負が早々と決まるものや、手に汗握る大逆転劇ありと会場を沸かせました。

訓練結果は、以下のとおりです。

優 勝 伊尾木分団

準優勝 安芸分団

第3位 和食分団

今回の訓練は消火作業を行なううえでは基本中の基本であり、入賞されました分団は常日頃からの訓練成果が十分に発揮された結果であります。

また、ミス等がありました分団については、確実性を再認識するとともに、ミスが出て本番同様に素早くフォローして立て直していくかなど、今後の活動していくうえでの課題として良い経験になりました。



第22回全国消防操法大会 愛知県蒲郡市で開催

○ 開催日時 平成22年11月12日（金）
午前9時00分（雨天決行）

○ 開催会場 蒲郡ポートレース場
（愛知県蒲郡市竹谷町太田新田1-1）

1 目的

全国消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与することを目的とする。

2 出場隊等

(1) 出場隊は、都道府県ごとにポンプ車又は小型ポンプのいずれか1隊とする。また、操法種別については、前回大会に出場したものと異なる操法種目とする。

ただし、開催地である愛知県は、両種目出場とする。

(2) 出場隊の指揮者は、班長以上の階級の者とする。

3 消防操法種別

(1) ポンプ車操法

ア 手びろめによる二重巻ホース2線延長（各線ホース3本）

イ とび口操作及び水出しを付加する。

ウ 収納は省略する。

(2) 小型ポンプ操法

ア 手びろめによる二重巻ホース1線延長（ホース3本）

イ とび口操作及び水出しを付加する。

ウ 収納は省略する。

(3) 操法要領は、第21回全国消防操法大会実施要領に準じる。

4 使用ポンプ、車両及び機材

使用ポンプ、車両及び機材は、原則として出場隊の持ち込みとする。

5 表彰

(1) 各操法とも10位までを表彰する。

(2) 優勝 各操法1隊

優勝隊には、日本消防協会会長賞のほか、消防庁長官賞（優勝旗は持ち回り）が授与される。

(3) 準優勝 各操法3隊

(4) 優良賞 各操法6隊

(5) 優秀選手賞 各操法の各操作員1名

6 出場順

ポンプ車の部 第1コース

	都道府県	消防団名
1	熊本県	荒尾市消防団
2	北海道	旭川市消防団
3	香川県	丸亀市消防団
4	大阪府	豊中市消防団
5	長崎県	壱岐市消防団
6	山形県	三川町消防団
7	富山県	富山市消防団
8	徳島県	阿南市消防団
9	鳥取県	江府町消防団
10	宮崎県	出場辞退
11	愛知県	豊明市消防団
12	神奈川県	湯河原町消防団

ポンプ車の部 第2コース

	都道府県	消防団名
1	長野県	富士見町消防団
2	三重県	いなべ市消防団
3	福岡県	須恵町消防団
4	高知県	いの町消防団
5	福井県	福井市消防団
6	秋田県	大潟村消防団
7	静岡県	富士市消防団
8	茨城県	常総市石下消防団
9	栃木県	上三川町消防団
10	沖縄県	名護市消防団
11	和歌山県	日高川町消防団
12	埼玉県	秩父市消防団

小型ポンプの部

	都道府県	消防団名
1	岡山県	和気町消防団
2	鹿児島県	出場辞退
3	石川県	野々市町消防団
4	島根県	江津市消防団
5	岐阜県	揖斐川町消防団
6	千葉県	印西市消防団
7	青森県	十和田市消防団
8	京都府	宮津市消防団
9	佐賀県	玄海町消防団
10	群馬県	中之条町消防団
11	奈良県	奈良市消防団
12	広島県	福山市消防団
13	東京都	大森消防団
14	山口県	山口市消防団
15	宮城県	石巻市雄勝消防団
16	愛媛県	伊方町消防団
17	兵庫県	福崎町消防団
18	大分県	竹田市消防団
19	山梨県	南アルプス市消防団
20	愛知県	大口町消防団
21	岩手県	葛巻町消防団
22	福島県	南会津町消防団
23	新潟県	新潟市消防団
24	滋賀県	長浜市高月消防団

宮崎県・鹿児島県については、口蹄疫発生に伴う諸事情により出場辞退。

子供×KEIRIN
盲導犬×KEIRIN
再生水×KEIRIN
オリンピック×KEIRIN

RING!RING!プロジェクト、はじまる。

夢に向かってがんばる人たちの願いと、それを応援するケイリンの願い。
2つの願いが自転車と競輪となって、まっすぐ未来に進んでいくように。
みんながやりたいことをかなえ、もっと笑顔の輪が広がっていくように。
ケイリンの補助事業は「RING!RING! プロジェクト」に生まれ変わります。

RING!RING!プロジェクト 競輪補助事業ホームページ
<http://ringring.keirin.jp/>
 日本自転車振興会 〒100-8011 東京都千代田区六本樹4-6
 競輪工業振興財団 / 03-3514-2729 公益事業部 / 03-3514-2726

都道府県消防操法大会及び消防育英会事業は競輪補助事業として実施しています

第22回全国消防操法大会 記念Tシャツ

第22回全国消防操法大会が愛知県蒲郡市で開催されることを記念して、大会記念Tシャツを作成いたしました。バックプリントは、操法大会の開催地「蒲郡市」をイメージしたデザインになっております。また、左胸に消防のイメージキャラクター「消太」を、左袖には操法大会のシンボルマーク、右袖には全日本消防人共済会の火災共済キャラクターを入れ全体的にシンプルなデザインに仕上げました。今回しか手に入らない限定品となっておりますので、是非記念としてお買い求め下さい。

詳しくは（財）日本消防協会のホームページ（<http://www.nissho.or.jp>）をご覧ください。

■ オレンジTシャツ
 ■ サイズ：S、M、L、XL
 ■ 素材：綿100%

(フロント) (左袖) (右袖) (バック)

1,500円 (税込)

■ ネイビーTシャツ
 ■ サイズ：S、M、L、XL
 ■ 素材：綿100%

(フロント) (左袖) (右袖) (バック)

1,500円 (税込)

■ ウェアサイズ表

単位：cm

サイズ	A 身幅	B 着丈
S	48.0	65.0
M	50.0	68.0
L	53.0	71.0
XL	58.0	75.0

■ シャツのサイズは左記の表を参考にして下さい。
 ※Tシャツは男女兼用のサイズです。

住警器Now! ～第3回～

30以上の町会・自治会が参加した共同購入の取組 (東京都江戸川区)

総務省消防庁 予防課

～イントロダクション～

- 地域コミュニティにおける住警器の普及・展開活動において、複数の町会・自治会が連携するには時間や労力が必要となる一方、より多様な活動が可能となるメリットがあります。
- 今回は、葛西地区の88の町会・自治会が加入する葛西地区自治会連合会において、共同購入等が未実施であった32の町会・自治会が参加した共同購入事例について紹介します。

(1) 地域・取組主体の概要

葛西地区は、江戸川区のほぼ3分の1の人口と面積を占める地域である。葛西地区自治会連合会には、この葛西地区に存在する100の町会・自治会のうち、88が加入している。

この事例における共同購入では、既に共同購入等が実施されていた町会・自治会を除いた32の町会・自治会が参加し、共同購入を行った。

(2) 共同購入の取組概要

葛西地区自治会連合会では、平成22年4月1日より設置が義務化される住警器の重要性をかんがみ、加入している町会・自治会で協議の上、平成21年6月～平成21年9月までの3か月で住警器の共同購入を実施した。共同購入においては、既に取組等が進んでいた町会・自治会以外の32の町会・自治会が参加した。

共同購入を行った結果、2万3,000個以上の申込みがあり、約4,700世帯への設置が行われた。また共同購入実施後も、購入したいという要望に応じて、同一の価格で購入できる即売会を複数回実施。これまでに5つの町会で開催されており、計約1,800個の住警器が購入・設置された。

(3) 工夫点の紹介

取組主体	葛西地区自治会連合会
人数等	葛西地区の88の町会・自治会が加入 加入世帯数は10万4,838世帯
消防署等	葛西消防署
職員数	183人
地域	江戸川区(特別区)
人口/世帯数	65万3,944人/28万1,705世帯
キーワード	●広報・周知(テレビ・ラジオ等、 掲示物・配布物、説明会、戸別訪問) ●共同購入 ●販売会 ●集金方法の工夫 ●設置支援

平成21年6月 共同購入の体制づくり・共同購入の実施

工夫点

- ①丁寧な説明会による町会・自治会の連携体制の構築
- ②メディア活用、戸別訪問等による積極的な広報の実施
- ③共同購入による安価な購入
- ④集金への配慮
- ⑤高齢者のみの世帯等への設置支援

(展開期)

平成22年3月 他の購入希望者へ向けたフォローの実施

工夫点

- ⑥更なる普及のための即売会実施

(フォロー期)

工夫点①：丁寧な説明会による町会・自治会の連携体制の構築

●実施内容

葛西地区自治会連合会には多くの町会・自治会が加入しているため、総会の他、いくつかの地域ごとに協議会が設置されているなど、階層だった組織となっている。この事例では、共同購入をスムーズに進めるために、総会において共同購入実施の決定やメーカーの選定が行われた後、協議会、さらにはそれ

それぞれの町会・自治会の集会などの場で、丁寧な説明会が実施された。

説明会実施については地域の消防署に依頼し、住警器の設置が必要となる背景の他、共同購入の流れについても詳しく解説し、各町会・自治会が行う必要のある作業等について理解できるよう工夫を施した。また、取付けのイメージを持ってもらうため、取付け実演セットを作成するなど、視覚的にも分かりやすい説明を心がけた。

●ポイント

住警器の設置については、個人が自らの意思で購入しなければならぬため、各個人の意識啓発が大きな課題となる。チラシ等による情報提供も重要ではあるが、一方で、購入の意思を固めるまでには、日頃からコミュニケーションをとっている町会や自治会からのアプローチが非常に大きな役割を果たすことが多い。この事例も、町会・自治会のコミュニティのつながりを活用して、普及に成功した事例の一つである。

コミュニティの規模が大きくなればなるほど、説明会等のきめ細やかな対応は難しくなる傾向がある。しかしながらこの事例を含め、大規模な取組においてもできる限り多くの場で説明会を行ったことが、後の効果につながったと見られるケースも多い。また、取組の規模が大きいくほど、既に取組が開始されている団体等との調整が必要なケースもある。こうした背景からも、丁寧な説明会の場を設けることが、活動の成功において重要なポイントであると考えられる。

工夫点②：メディア活用、戸別訪問等による積極的な広報の実施

●実施内容

地元の消防署より、地元のケーブルテレビに対して自治会連合会の取組の情報提供を行った結果、町会での説明会の様子が取材され、1週間の間放映された。なお、これまでも、例えば消防団の出初式や地域のお祭りに関する情報提供を行った結果、取材・放映される等、地域とケーブルテレビ局間での比較的活発な連携が行われている。

また、地域の消防署と連携し、回覧等で共同購入の申込みを受け付けている期間、消防署員が戸別訪問を行い、住警器に関する説明を行った。

●ポイント

地元のテレビ局や新聞社など、メディアに取り上げられることにより、広報効果はもちろん、取り組んでいる人のモチベーション向上も期待できる。この事例において、ケーブルテレビに取り上げられるきっかけとなったのは、自治会連合会からの情報提供であるが、取り上げられる・ないに関わらず、日頃よりメディアに対してこのように情報提供を行っておくことにより、必要な時に取り上げられる可能性が高まる。

また、「工夫点①」でも示したとおり、各個人の意識啓発という観点からは、戸別訪問等の各個人へのアプローチも重要な取組であるといえる。取組主体の規模が大きくなればなるほど、戸別訪問にかかる労力は大きくなるが、今回の事例のように消防署と連携する等の方法により実施することができれば、取組の更なる効果が期待できる。

工夫点③：共同購入による安価な購入

●実施内容

共同購入においては、まず自治会連合会が主体となってメーカーの選定や住警器配布の大まかな段取り等を行い、各町会・自治会は自らの地域の購入希望を取りまとめ、集金、配布を行った。「工夫点②」の広報も活用しながら共同購入を進めた結果、計2万3,000個以上の申込みが集まった。

●ポイント

購入価格については、他の事例と同様、取りまとめて大量購入を行うことにより、一台あたりの購入価格を抑えることを実現している。

また、「工夫点①」に紹介した説明会の中では、各町会・自治会が負担する役割を理解しやすいよう、共同購入の流れを分かりやすくまとめたフローチャートを示すなどの工夫が施されたことが、円滑な共同購入実施へとつながったと考えられる。

工夫点④：集金への配慮

●実施内容

集金がスムーズに行われるよう、集金及び住警器配布のフロー例を作成した。フロー例については、町会・自治会の各班長が集金や住警器配布を行う例や、メーカーが指定する日時及び場所に各個人が受け取りに行く例など、複数のケースについて用意した。

●ポイント

住警器は単価が比較的高いため、共同購入を行う際には、集金業務が大きな課題の一つになることもある。購入規模が大きい場合、ある程度取りまとめた上での支払いをメーカーより求められることもあるが、集金を実施する場合、後々のトラブル防止のためにも、入念に準備を行うことが重要となる。

地域コミュニティ内でどなたかが集金業務を担当される場合、金銭を扱う業務に慣れていない可能性も考えられるため、準備の際の参考となるフロー例を用意することは、共同購入の円滑な実施のために効果的であると考えられる。

工夫点⑤：高齢者のみの世帯等への設置支援

●実施内容

住警器は天井や壁の高い位置に取り付ける必要があるため、高齢者のみの世帯等、自力での設置が困難な世帯には、地域の消防団がバックアップして設置支援を行った。

●ポイント

配布した住警器が実際に活用されるためには、正しい方法で設置される必要がある。そのため、各世帯で購入された住警器が効果を発揮するためには、自力設置が困難な世帯等に対し、しっかりと設置のフォローまでを行っていくことも重要な取組となる。

工夫点⑥：更なる普及のための即売会実施

●実施内容

共同購入では購入しなかったが購入を検討している世帯、追加で購入を希望する世帯等、共同購入後に出てきたニーズに対応するため、住警器の即売会を実施した。即売会は、希望のあった5町会・自治会で行われ、メーカーと交渉して共同購入時と同価格での提供を実現。また、共同購入時と同じく、ケーブルテレビでの放送や、消防署と連携した戸別訪問などを行って広報活動を行った結果、約1,800個が販売された。

●ポイント

1回の共同購入実施では、様々な事情により、すべての世帯の購入には至らないことも多い。一方で、共同購入の実施には多くの労力がかかるため、何度も実施することは困難である。

この事例では、「即売会」を開くことで、共同購入後の購入相談に対応した。「即売会」

のメリットとしては、住警器の受渡しや集金面で町会・自治会にかかる負担が比較的小さくなることが挙げられる。住警器の認知度が高まっている状況では、購入者のある程度の確保も期待できるため、共同購入実施後の普及策として、効果的な対応の一つであると考えられる。

(4) その他のポイント等

●日々の防災活動の活用

この事例においては、共同購入における広報施策として、ケーブルテレビでの放送や、消防署と連携した戸別訪問の実施などが行われた。これらは、住警器の共同購入のために新たに行われた取組ではなく、これまで、地域コミュニティの防災活動の一環として行われてきた活動である。

住警器に関する取組については、日頃からの防災活動の一環としていかに取り込んでいけるかという点も、スムーズな実施のための重要な観点となる。

●行政との連携

共同購入実施にあたっては、32の町会・自治会が一斉に取り組むため、問い合わせ等が多数発生することが予想された。そこで江戸川区役所葛西事務所が窓口となり、各関係者と確認を取りながら問い合わせ対応を実施。葛西事務所には、葛西地区自治会連合会の事務局が設置されており、日頃より行政と地域コミュニティが、連携して活動を展開している。

以上のように、行政機関である葛西事務所が、関係者連携の橋渡しとしての役割を果たしたことも、この共同購入の取組がスムーズに進んだ理由の一つであるといえる。行政と地域コミュニティの連携がうまく機能することにより、更なる効率的・効果的な活動が可能となる。

今回は、1,300戸以上が入居する大規模な集合住宅において、管理組合が主体となり設置を進めることで、設置率100%を達成した「集合住宅の管理組合における住警器の設置促進活動（取組主体：なぎさニュータウン管理組合（東京都江戸川区）」を紹介します。

なお、本ノウハウ集は消防庁ホームページ（住宅防火情報）でもご覧いただけますので、参考としてください。

<リンク先>

<http://www.fdma.go.jp/html/life/juukei.html>

ガス機器による火災及びガス事故の防止

総務省消防庁 予防課

都市ガスやプロパンガスは、便利で私たちの生活になく
てはならないものですが、取扱いを誤ると火災や爆発など
の大きな事故につながります。また、不完全燃焼によって
発生する一酸化炭素中毒事故も恐ろしいものです。そこで、
ガスを使うときは次の点に注意し、ガスによる火災や事故
を防ぎましょう。

なお、消防庁ホームページ（住宅防火情報）でも「こん
ろ火災の恐怖とその対処方法」についての映像資料をご覧
いただけますので、参考としてください。

〈リンク〉

<http://www.fdma.go.jp/html/life/juukei.html>

ガス機器の正しい取付け

- ① ガスこんろやガスストーブを柱や壁に近付けて使用す
ると、壁面等を熱に強い材料で覆っていても、内部の木材
が炭化して、低温でも発火することがあります。柱や
壁などから間隔を取って使用してください
- ② ガス漏れを防ぐため、ゴムホース等は器具との接続部
分をホースバンド等で締め付けるとともに、適正な長さ
で取付け、ひび割れ等の劣化がないか時々点検してくだ
さい。

ガス機器の正しい取扱い

- ① ガス機器を点火したときは、必ず火がついたかどうか
確かめてください。
- ② ガスこんろを使用し、揚げ物等をしている際の火災が
多く発生しています。揚げ物
等をする際には絶対にその場
を離れず、またどうしても離
れる場合は短時間であっても
こんろの火を必ず消してくだ
さい。
- ③ 煮炊き等をする際も、鍋を
火にかけたら目を離さないようにし、煮こぼれなどによ
る炎の立ち消えや加熱のしすぎによる空焚き等がないよ
うに注意してください。
- ④ こんろの周囲は、整理・整頓に努め、可燃物等に火が
燃え移らないように注意してください。
- ⑤ 煮こぼれなどによるガスバーナーの目詰まりは不完全
燃焼を起こし、有毒な一酸化炭素を発生させ、一酸化炭
素中毒の原因にもなります。日頃から適度な清掃に努め
てください。



天ぷら油過熱防止機能

十分な換気

- ① ガスが燃焼するためには、多量の新鮮な空気を必要と
します。空気が不足すると不完全燃焼を起こし、有毒な
一酸化炭素が発生するので大変危険です。換気扇を回す、
窓を開けるなど換気に心がけましょう。
- ② ガス風呂釜や大型湯沸器等の排気筒が外れていたり、
鳥が巣を作るなど物が詰まった状態ですと排気が不十分
になり不完全燃焼が起きることがあります。異常を感じ
たら、直ちに排気筒が正しく取り付けられ、正常な状態
にあるか点検してください。

ガス漏れに気付いた時の注意点

ガス漏れなどの異常に気付いた時は、ガスの元栓を閉め、
窓を開けて空気の入換えをしてください。また、その際、
換気扇、電灯等のスイッチやコンセントプラグには触れな
いでください。火花が発生し、爆発を起こす危険がありま
す。

地震が発生した時の注意

- ① ガス機器を使用中に地震が発生した場合には、あわて
ずに火を消し、ガスの元栓を閉めてください。使用中の
ガス機器に近付けないような揺れの大きな地震の際には、
まず身の安全を図り、揺れがおさまった後に対処するよ
うにしてください。使用していたこんろ、湯沸器などは、
確実に消火してください。
- ② プロパンガスボンベを使用している場合は、プロパン
ガスボンベは必ず屋外の風通しのよい日陰に設置し、地
震等で転倒しないよう鎖などで固定してください。

安全装置付ガス機器の使用

- ① ガス栓の不完全な閉止、炎の立ち消え、機器の老朽化
などによって起きるガス事故を防ぐため、ヒューズコッ
ク、マイコンメーター等の安全装置やガス警報器を設置
し、噴きこぼれによる「立ち消え安全機能」、揚げ物等の
調理中に油の温度が上がりす
ぎる前に自動的にガスが止ま
る「天ぷら油過熱防止機能」
などの安全機能がついたガス
機器を使用することが有効で
す。
- ② 安全暖房器具には、地震な
どの揺れを感じたり、誤って
倒した時に自動的に消火する
「対震自動消火機能」のほかに、ファンヒーターの消し忘
れによる長時間運転時に自動的に消火する「消し忘れ自
動消火機能」などがついているものがあります。ガスに
よる火災・事故を未然に防ぐために、これらのガス機器
を積極的に使用すると有効です。

住宅用火災・ガス・CO警報器の設置

ガス機器による
火災及びガス事故
を総合的に防止す
るためには、ガス
漏れと一酸化炭素
の発生を検知す
る、ガス・CO警
報器に、熱又は煙
感知機能が加わっ
た住宅用火災・ガ
ス・CO警報器を
設置することが有
効です。



都市ガス用



LPガス用

住宅用火災・ガス・CO警報器

火山災害に対する備え

総務省消防庁 防災課

日本には108の活火山がありますが、国内では平成12年の有珠山、三宅島の噴火以来、大きな人的・物的被害を伴う火山噴火は発生していないため、「火山災害」と聞いても想像しづらいかもしれません。しかし、鹿児島県の桜島は現在も定常的に噴火して火山灰を降らせていますし、浅間山では昨年、噴石の飛散を伴う噴火が発生しています。その他、平成20年以降では雌阿寒岳、三宅島、霧島山、諏訪之瀬島で噴火が発生しています。

噴火警報と噴火警戒レベル

火山は、事前に噴火を予測できる場合がある一方で、ひとたび噴火すると、噴石・火砕流・泥流等が短時間で居住地域に襲来する可能性があります。このため、事前の迅速な避難が人的被害の有無を大きく左右します。

こうした火山災害の特徴を踏まえ、平成19年より噴火警報・噴火予報、噴火警戒レベルの運用が開始されています。平成22年7月現在、桜島がレベル3（入山規制）、その他の火山はレベル2または1となっていますが、仮にレベル4（避難準備）以上に引き上げられた場合、火山周辺地域では安全のため、避難準備または避難という具体的な防災行動を迅速に取ることが強く望まれます。

迅速な避難のために

いざという時に迅速に避難が行われるためには、平常時からの火山防災体制の整備が非常に重要となります。

1. ハザードマップの作成、配布

「火山が噴火すると、どの地域にどのような危険が及ぶのか」をわかりやすく示した火山防災ハザードマップを予め作成し、地域住民に配布することなどを通して、火山防災意識の高揚を図ることが減災につながります。

2. 避難体制の整備

いざという時に迅速に避難できるよう、避難場所や避難



桜島火山ハザードマップ（鹿児島市発行）

経路等を予め定めておく必要があります。特に、高齢者等の自力避難が困難な災害時要援護者に関しては、避難の際に誰が誰を支援するかを事前に決めておくなど、速やかに避難できるよう配慮する必要があります。

3. 情報伝達体制の整備

噴火警報や避難勧告等の情報を住民、観光客等に迅速に伝達するため、防災行政無線の整備や、消防団や自主防災組織等を通じた情報伝達体制の整備が重要です。

消防庁ホームページ内の「防災・危機管理 e-カレッジ」では、平成12年の有珠山噴火時の噴火の様子や自治体・住民の取組などを映像で紹介しています（<http://www.e-college.fdma.go.jp/bosai/image/image.html>）。また、雲仙岳災害記念館のホームページでは、平成の雲仙岳噴火の様子などが映像で紹介されています。こうした貴重な映像資料は、防災意識の啓発に非常に有効です。

なお、火山活動は想定している過去の事例どおりに推移するとは限らず、同じ火山でも噴火に至る過程や火口の位置などが異なることも珍しくありません。様々な事態に臨機応変に対処できるよう、実践的な訓練を通して「安全のための行動」を身につけることが重要です。



平成12年4月の有珠山噴火では、ふもとの居住地域にも甚大な被害をもたらされたが、噴火前に迅速な避難が行われたこと等により、幸い人的な被害はなかった。（写真提供：北海道）



日本の活火山分布図

消防の国際協力に対する理解の推進

総務省消防庁 参事官

消防庁では、災害から国民の生命、身体及び財産を守るという万国共通の課題に対応するため、消防機関、外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）等と連携・協力の下、消防分野の国際協力を実施しています。

そのうち、海外からの研修生の集団研修として消火技術研修、救急救助技術研修及び火災予防技術研修の3コースを、それぞれ北九州市消防局、大阪市消防局及び東京消防庁を主な研修機関として実施し、本年度につきましては、15か国から合計22名の研修生を受け入れています。

これらの研修は、消火技術研修は昭和62年から、救急救助技術研修は昭和63年から、火災予防技術研修は平成2年からそれぞれ行われており、これまでの経験、創意工夫や熱意により内容の濃い研修が毎年実施されてきています。これまでこれら3コースへの研修参加者は、研修開始年からの累計で91か国528名（平成22年4月1日現在）にのぼります。

このほか、平成20年5月の中国四川省における大地震災害後、中国全土の地震緊急救援を担う中国地震局の研修実施能力強化のため、本年度から3年間の予定で「日中協力地震緊急救援能力強化計画プロジェクト」を実施しているところです。本年度は、4月より東京消防庁からは長期及び短期専門家として、仙台市消防局、横浜市消防局、大阪市消防局、神戸市消防局、広島市消防局からは短期専門家としてそれぞれ中国への派遣に協力を頂き、継続的に現地の救助技術の指導にあたっていきます。また、災害応急対応能力の強化を目的として、我が国の災害応急対応に関わる行政官や研究者が短期専門家として現地の指導にあたっており、本年5月には、災害応急対応能力強化に関する中国からの訪日研修をおよそ10日間の日程で実施したところです。今後とも、関係機関の協力のもと、救助能力及び災害応急対応能力の強化を軸として、本プロジェクトを推進していくこととしております。

そして国際交流として、アジア諸国における消防防



インドネシア西スマトラ州バダン沖地震災害における国際消防救助隊（IRT）の検索救助活動

災能力の向上や国際的なパートナーシップの涵養を図るため、第4回目の国際消防フォーラムをインドネシア共和国で開催するほか、今年度で9回目を迎える韓国との日韓消防行政セミナー、昨年度から中国との日中消防防災セミナーを開催し、今後も国際交流の推進を図っていく予定です。

加えて、海外での大規模災害発生時における国際緊急援助活動として、昨年9月に発生したインドネシア西スマトラ州バダン沖地震災害の救援のため、当庁及び東京消防庁、札幌市消防局、福岡市消防局、さいたま市消防局、横須賀市消防局から国際消防救助隊員17名をインドネシア共和国へ派遣し、被災地において検索救助活動を実施したところです。

消防分野における国際協力は、「顔の見える援助」、「参加型の協力」としてその重要性はますます大きくなってきており、人口増加や都市化の進展が著しく、火災等の災害による経済的損失も大きくなってきている途上国からのニーズも増大しているところでもありますことから、今後とも、消防の国際協力に関するご理解ご協力をお願いします。



平成21年度消火技術集団研修
（北九州市消防局）



平成21年度救急救助技術集団研修
（大阪市消防局）



平成21年度火災予防技術集団研修
（東京消防庁）

地震に対する日常の備え

総務省消防庁 防災課

地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、日頃からのいざという時のための準備が大切です。そのためには、皆さんが地震についての関心を持ち、地震発生時の安全確保や非常持出品について、普段から家庭で準備しておくことが大切です。

1. 家庭での防災会議

地震の時に家族が慌てず行動できるよう、日頃から話し合い、情報を共有しておきましょう。

- 地震はいつ起こるかわからないことから、時間帯によって誰が在宅しているかなど、様々なケースを想定し、話し合っておきましょう。



- 話し合いでは、想定したケースごとに分担を決めるほか、高齢者や乳幼児など家族構成も考慮し、次のようなことも相談しておきましょう。
 - ・家の中でどこが一番安全か
 - ・避難場所、避難路はどこか
 - ・非常持出袋はどこに置いてあるか
- 住所、氏名、連絡先や血液型などの自分の情報を記載した避難カードを作成し、普段から携帯しましょう。

2. 家族との連絡方法の確認

家族が離ればなれで被災した時を考えて、お互いの安否の確認手段を考えておきましょう。

- 家族が離ればなれで被災した場合、自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否を確認しましょう。
- 被災地では、連絡手段が限られていますので、公衆電話等から利用できるNTTの「災害用伝言ダイヤル171」や、携帯電話の「災害用伝言板」などのサービスについて活用方法を知っておきましょう。

3. 防災活動への参加

地震に備えるには、防災訓練などの地域の防災活動に積極的に参加しましょう。

- 地震の時に、初期消火や救出救助活動を行うには日頃からの訓練が欠かせません。家族全員で防災訓練に参加しましょう。
- 9月1日は防災の日で、8月30日から9月5日は防災週間となっており、各地で防災訓練等が行われていますので、市町村役場などで確認しましょう。
- 災害などが発生した場合を想定し、参加者で被害状況や対応策について地図に書き込みイメージする「災害図上訓練」も行われています。
- 地域の自主防災組織などの活動に参加し、普段から地域で協力し合う体制を築いておきましょう。
- 目安として最低限3日間程度の水や食料品を備蓄しましょう。
- 備蓄品は、家族構成、住居や地域の特性によって必要となるものは異なります。自分や家族にとって本当に必要なものを考えて準備しましょう。
- 備蓄品は、家族、地域の状況や消費期限などと照らし合わせて定期的にチェックし、必要に応じて入れ替えましょう。

4. 備蓄品・非常持出品を備える

地震が発生すると普段どおりの生活ができなくなることも考えられます。数日間生活できるだけの『備蓄品』を備えておきましょう。地震の被害によっては、避難を余儀なくされることもあります。避難する時に持ち出す『非常持出品』を準備しておきましょう。

- 非常持出品は、備蓄品の中から、避難生活に必要なものを選ぶのがよいでしょう。備蓄品にない場合は、必要に応じて準備しましょう。
- 非常持出品は、玄関や寝室など持ち出しやすいところに置いておき、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。背負える袋などにいれておけば、持ち出した時に両手が使えて便利です。



うちの

名物団員



宮
城
県



宮城県登米市消防団 ラップ長

柳 潤一

今年4月に登米市消防団ラップ長に就任した柳潤一さんは消防団活動を熱心に行う傍ら、趣味のアマチュア無線で様々な地域の方々と情報交換や交流を図っています。

特に有事の際はこの趣味を生かし、市内のアマチュア無線クラブの方と連携をとり、災害状況の把握や情報伝達を行うなど重要な役割を果たしています。

また、農業複合経営体「有限会社おとちグリーンステーション」の代表でもあり、農業経営の指導や後継者の育成に力を注ぎ、消防団協力事業所の認定を受けるなど公私にわたって地域の発展や防災のために貢献しています

富
山
県



富山県富山市消防団 呉羽方面団 呉羽分団 団員

本田 齋 (いつき)

「きときと」「あんま」・・・地元の方言(富山弁)です。わかりますか？

今回紹介する本田団員は、この富山弁を自由奔放に使いこなして、平成18年に富山商工会議所などが初めて開催した「とやま弁大会」で見事に優勝、その後「とやま弁漫談家」として様々なイベントで大活躍しています。もちろん、消防団の家族慰安会でも流暢な方言で漫談を披露し、団員相互の融和と親睦に一役も二役もかっています。誰からも親しまれる性格で、これからも地域に根ざした消防団活動に取り組んでいってくれるでしょう。

(冒頭の富山弁は「きときと→新鮮」「あんま→長男(兄)」という意味です。)



兵
庫
県

兵庫県姫路市姫路西消防団 城陽分団 分団長

長谷川 一信

幼い頃から「燃える男」の異名を持ち、火災を知るやいなや、誰よりも早く現場に駆け付け、陣頭指揮を執り消火活動に奔走する、地元で彼を知らない人はいないこの名物男が、通称「ヒゲの分団長」長谷川分団長です。

豆腐屋稼業を営んでおり、車載無線を装備した配達車両で出動体制は万全。連続放火が続いたときは、毎晩パトロールし、活動服を着たまま就寝していたそうです。

新入団員の教育訓練では、他の校区の団員にも手取り足取りの熱血指導を惜しまない親分的存在であります。





兵庫県姫路市香寺町消防団 副団長

清瀬 英之

姫路市香寺町消防団で活躍されている、清瀬英之副団長を紹介いたします。本職は自営業で工務店の専務をされていますが、いざ災害発生で指令が入ると一番に現場に駆けつけ活動される、若い団員から兄貴分と頼られる副団長です。

趣味は体力練成を兼ねた自転車ロングライドで、休日には関西圏を越えて遠征（目的地まではマイカーで）されるとか。何処かで見かけられたら気楽にお声がけください。

自宅では3人の子供さんの良きパパで、全国女性消防操法大会に出場された経験を持たれる現役消防団員の奥様と、とても仲の良いおしどり消防団員夫婦です。



香川県坂出市消防団 川津分団副団長

川田 昌和

坂出市消防団川津分団の川田副団長（51）を紹介します。

川田さんは、副分団長として災害現場で指揮活動を行うことはもちろん、町おこしの中心的存在として地元の川津太鼓台「太鼓組」の責任者や地元青年団の幹部として老若男女を問わず幅広い年齢層から絶大な信頼を受けています。

本年8月に開催された“さかいで大橋まつり”では太鼓台運営委員会会長として11台の太鼓台を統括し、勇壮・華麗な太鼓台競演を成功に導いた手腕を高く評価されました。

今後も、消防団幹部及び地域のリーダーとしての活躍が期待されている逸材です。

写真、左が川田副分団長。（中央は綾市長、右が梶団長）



茨城県取手市消防団 女性消防団 部長

山口 文子

入団7年目の山口さん、いつも笑顔で女性消防団を取りまとめ、今やなくてはならない存在です。その山口さん8年前から始めた太鼓はかなりの腕前、太鼓の衆風舞に所属し8月14日に行われた花火大会ではオープニングセレモニーで熱い演技、これからも消防団活動とともに頑張ってください。





佐賀県有田町消防団
団長

北川 宣行



平成18年3月1日に旧有田町、旧西有田町の2町が合併し新有田町となり、現在の有田町消防団が発足しました。

有田町は、佐賀県の西に位置し人口21,665名、面積は65.80km²の小さな町ですが、毎年5月の連休に開催される陶器市には100万の人が訪れ町は観光客で一杯になります。

消防団組織は、1本部、4分団526名（平成22年4月1日現在、定数540名）で活動しています。

平成21年度第19回全国女性消防ポンプ操法大会の出場依頼が県消防協会から有

田町消防にありました。この全国大会には第9回大会に有田町女性消防隊が出場し、優秀賞に輝いた経験があり、承諾はしたものの現在の有田町女性消防隊には出場できる若い隊員がいないため、町内の企業に募集に参りましたがなかなか見つかりませんでした。最後に町内の保育園に頼みに行ったら、保育士の皆さんに快諾をしてもらいました。いざ訓練に入ると何もかもが初めての体験でスタートしました。保育士の仕事が終わって訓練に入ると、最初のうちは若さで何とか乗り越えていた訓練も、思うようにタイムが縮まらなく涙する隊員もいました。何とか5ヶ月間の訓練を終え、いざ本番を向かえました。隊員はいままでの訓練の結果を出し団体で優良賞に輝き、個人でも優秀賞を受賞し目には輝くものがありました、これも訓練で流した涙の結果だと心から感謝した大会でした。



平成22年度 全国統一防火標語

「消したかな」 あなたを守る 合言葉

10月の日本消防協会関係行事

10月13日（水）～21日（木）

消防団長等幹部海外消防事情調査

編集後記

今年の夏は、猛暑が続きとても暑くて長い夏でしたが、少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。「日本消防」の愛読者の皆さまの地域では、いかがでしょうか。

さて、9月は台風のシーズンでもあります。台風によって引き起こされる災害には、風害、水害、高潮害、波浪害などがあります。もちろん、これらは単独で発生するだけではなく、複合して発生して大きな被害となることがあります。気象庁の統計によると、日本に大きな被害を与えた台風は、9月に来襲しております。このころは、日本列島付近に秋雨前線があり、台風の東側を廻って前線に流れ込む湿った空気が前線の活動を活発化させて大雨を降らせる場合と関係しているとのこと。台風がもたらす雨は、台風自身の雨のほかに、このように前線の活動を活発化して降る雨がありますので、台風本体の影響がないところでも注意が必要となります。

台風は、地震と違って災害発生までに時間的余裕があり、必要な備えが可能です。台風による被害を最小限度に抑えるために家庭や地域で十分な備えをして、地域防災力を高めましょう。
(A.S)

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料（送料込） 2,388円

（問合せ先） 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十三巻第九号
平成二十二年九月五日印刷
平成二十二年九月十日発行

編集人 岩田知也
発行所 財団法人日本消防協会
東京都港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(303)一四八一(代)

印刷所
東京都千代田区外神田六―三―三
日本印刷株式会社
電話(383)六九七二(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

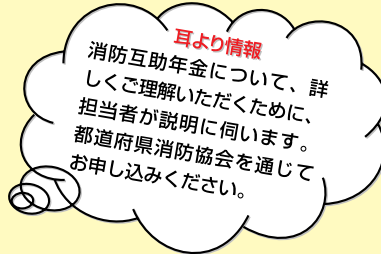
『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



「互助マル君」



耳より情報
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
- 生活協同組合全日本消防人共済会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>